

富士見市民大学開設40周年記念事業

富士見市

お囃子ここに集う

主 催 NPO法人市民大学

出演/協力 水子上組囃子連、水子城之下組囃子連、水子石井囃子保存会
中水子囃子保存会、富士見市教育委員会

期 日 平成30年2月4日(日)
時 間 13:30~16:30 (13:00 開場)
場 所 鶴瀬コミュニティーセンター/ホール

お囃子大競演に盛んな拍手！

2月4日(日)富士見市民大学開設40周年を記念して行われた文化行事「市内お囃子ここに集う」は、出演されました水子上組囃子連、水子石井囃子保存会、中水子囃子保存会、水子城之下組囃子連の皆さん総勢60名の方が「屋台」「仁羽」「仕丁舞」「鎌倉」「福は来る…」等々の演目を披露。その熱演に会場は熱気に溢れ、拍手喝采の嵐でした。

富士見市のお囃子は、長い歴史(200~150年前)の中で江戸神田囃子の流れをくむもので、江戸~大正前期まで交通手段であった新河岸川の船運によって“祭り囃子”が伝えられ、今なお地域の方々によって受け継がれ、親しまれています。

会場内からは「はじめて観賞しました。とてもユニークで、笛と太鼓、鉦しょうの3つの楽器？そして踊りが入っての演舞。感激しました。」「市内にこういうものがあると知らなかった。しかも4つの団体が一堂に集まって鑑賞させてくれるなんて、とても素晴らしいことだと思ひ



富士見市民大学開設40周年記念事業 第2弾
一地域に脈々と生きるお囃子(おはやし)が
一堂に集結！その魅力を発揮します！

富士見市
お囃子
ここに集う

平成30年2月4日(日)
13:30~16:30(13:00開場)
鶴瀬コミュニティーセンター/ホール
主催: NPO法人富士見市民大学 ☆参加無料
出演/協力: 水子上組囃子連、水子城之下組囃子連、水子石井囃子保存会
中水子囃子保存会、富士見市教育委員会
申込み・問合せ先: 事務局(鶴瀬公民館内): ☎049-251-1140
1/9(火)から受付開始 平日 9:00~17:00 ※先着200名

ます。」という声が聞けました。

司会は、市民人材バンクご登録の中嶋恵實子さんで、幕間には『囃子を守り、さらに進展させていくための現状と対策―高齢化と若手加入のためのご苦労』などのトーク、『囃子が「民俗芸能」としての文化財の認定を受けており、先人たちからの継承と活動を進めていくための秘策』などを、水子上組囃子連の代表である増田氏から聞き出す時間は好評でした。

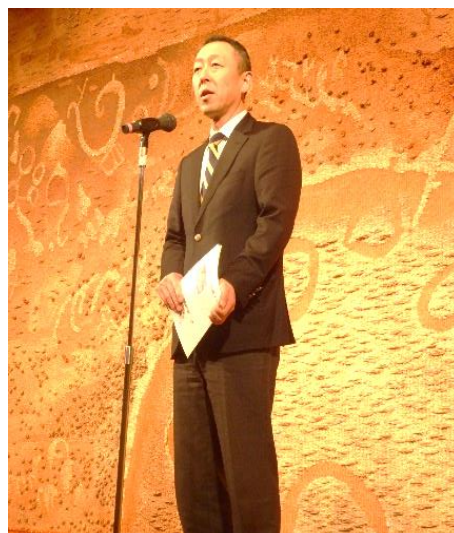
そして、同じく市民人材バンクから、中嶋明さんが銭太鼓の華やかな演奏により会場を盛り上げてくれました。

最後には「“福”佳き幸いの夢からんことを」のメッセージが込められた、地元産の餅菓子を会場内の観衆に投げられ拍手喝采で、市民大学の文化行事第2弾は終了しました。

富士見市のお囃子連・保存会の皆様をはじめ、開催に向けて大変なご協力とご尽力をくださった方々に改めて感謝申し上げます。有難うございました。



N P O法人市民大学
小山理事長



富士見市教育委員会
山口教育長



水子上組囃子連代表：増田氏

富士見市民大学開設 40 周年記念事業 第 2 弾

富士見市お囃子ここに集う!!

♪テケテンツク テケスク テンツクツ♪

その昔、村の鎮守さまから聞こえてくる“お囃子”に子どもの頃“綿アメ”を買ってもらった記憶が“郷愁”となって蘇ってきます。

富士見市民大学開設 40 年を記念しての文化行事として、市の“民俗芸能”に指定されております「お囃子連・保存会」の方々をお願いして、市内はじめて一堂に集まって『演奏会』を実施することが実現します。

各お囃子連・保存会の方々の熱意あるご参加にあらためて敬意と感謝を申し上げます。
家内安全 五穀豊穡 悪疫退散を願って先人たちから継承され、育んできた“郷土の民俗芸能の演奏”を最後まで充分楽しんでいただけたら幸いです。

NPO 法人富士見市民大学理事長 小山 健次郎

富士見市指定文化財 囃子

市内には現在、囃子を伝える 5 つの団体（勝瀬囃子・水子上組囃子・水子城之下組囃子・水子石井囃子・中水子囃子）があります。いずれも江戸神田囃子の流れをくむもので、川越と江戸を結ぶ交通路であった新河岸川の船運によって、直接的・間接的に祭り囃子が伝えられたといわれ、家内安全、護国豊穡、悪疫退散の祈りをこめ、神社の祭礼に奉納されてきました。これらのお囃子は、このほか地域の夏祭りや市民祭りなどでも演奏され、郷土の伝統芸能を守り伝えています。



水子上組囃子連



水子上組囃子は、江戸時代の嘉永年間（1848～1853）に伝えられたといわれています。それ以来、中断したことはありません。曲目には屋台、仁羽、仕丁舞、昇殿、神田丸、鎌倉を伝えています。屋台以下の曲を「屋台五拍子」と言っているのが特徴です。地元八雲神社の祭礼（天王様）に囃子を奉納しています。平成6年頃から、地域の子

どもたちの指導をし、後継者の育成に努めています。平成12年には、後継者育成と地域文化に貢献したとして「埼玉県文化ともしび賞」を受賞しました。

《本日の演目》

- ・屋台（やたい）…獅子がこの世の悪魔を祓い清める舞です。
- ・鎌倉（かまくら）…疲れてしまって獅子が昼寝をします。
- ・ねんねこ
- ・仁羽（にんば）…ひょっとこが獅子をからかいます。
- ・仕丁舞（しちょうめ）…鼻くそをほじくり、団子にして遊ぶ踊りです。





無形民俗文化財 16号

水子石井囃子保存会



水子石井囃子は、江戸時代末期に三芳町竹間沢から囃子を、同じ竹間沢の神楽師前田太夫から踊りを習ったものと伝えられています。神楽面も残されています。曲目は、昇殿、神田丸、鎌倉、仁羽、四丁目、屋台があり、踊りは獅子頭、天狐、下道、おかめ、ひょっとこ、蛸、三番叟があります。7月15日



水子城之下組囃子連



水子城之下組囃子は、水子岡ノ坂周辺に組織された団体で、明治35年頃に志木市の高橋雛吉氏より伝授されたといわれています。そして40年ほど前には、志木市の市場地区に囃子を教え返しました。曲目は、仁羽、仕丁舞、屋台、昇殿、鎌倉、岡崎があります。平成7年に浦和市（現さいたま市）の里神楽 岡田民五郎社中より指導を受け、“福は来る・女男の釣栄”や“両面踊り”を取り入れました。現在会員数は40名弱。7月15日に近い土曜日に行う地元八雲神社（天王様）の祭礼をはじめ、浦和市のまつりなど、市内外から出演要請を受けて活動しています。

【本日の演目】 福は来る・女男の釣栄





銭太鼓（中嶋明さん）



中水子囃子保存会



中水子囃子は、太鼓の胴の内側に「万延元年（1860年）」と記されていることから、江戸時代末期以前から存在していたと考えられます。春には獅子頭を納めた御輿で家々巡り、悪疫退散を祈る祭りである『平心講』が活動の中心となっています。現在は29名程度で活動しており、地域の催しのほか、水谷小学校の伝統・文化の体験学習にも協力しています。

《本日の演目》

- ・屋台（やたい）…獅子舞
- ・仁羽（みんば）…おかめ
- ・仁羽（みんば）…ひょっとこ
- ・屋台（やたい）…天狐



